

農技セ第6503号
平成29年5月1日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成29年度技術情報について

平成29年度技術情報第1号を発表したので送付します。

平成29年度技術情報第1号

平成29年5月1日
徳島県

クビアカツヤカミキリの発生状況及び防除対策について

平成27年7月、板野郡板野町のモモ園において、クビアカツヤカミキリの成虫が捕獲され、幹に虫孔（成虫の脱出孔）やフラス（幼虫の糞と木くず）が見られました。昨年は被害樹が増加したことから、今後、さらなる発生拡大が懸念されます。

このような中、これまで本県で実施した本種に対する農薬登録拡大試験成果をもとに、平成29年4月26日付けでモモとウメのカミキリムシ類に対する殺虫剤が適用拡大されました。

つきましては、本種の被害および発生の拡大を防止するため、発生状況の把握に努めるとともに、防除の徹底を御指導ください。

農作物名 モモ、ウメ

病虫害名 クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii*

1. 発生地域 板野郡板野町

2. 発生状況

板野町と鳴門市内で本種による被害状況を調査したところ、平成27年は864樹（30園）のうち、被害樹は130樹（17園）であったが、平成28年には1,178樹（46園）のうち、256樹（31園）と増加した。いずれも鳴門市内では確認されなかった。

3. 防除対策

1) フラス(木屑と糞の混じったもの)が排出される幼虫食入孔を見つけた場合には、針金や千枚通し等で食入孔内のフラスを掻き出し、以下の農薬のノズルを差し込み噴射する。

薬剤名 (成分名)	作物名	適用病害虫名	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フェンプロパトリンを含む 農薬の総使用回数
ロビンフッド (フェンプロパトリン)	もも	カミキリムシ類	収穫前日	2回以内	樹幹・樹枝の食入 孔にノズルを差し 込み噴射する	7回以内 (噴射は2回以内、 散布は5回以内)
	うめ					5回以内 (噴射は2回以内、 散布は3回以内)

2) 昨年、フラスが排出された樹では、6月下旬ごろより成虫が羽化し、分散する恐れがあることから、それまでに以下の処置を施す。

- ・ 樹幹部にネット(目合い5mm程度)等の被覆資材を巻き付ける。この際、樹と被覆資材の間が密着していると成虫がかみ切る恐れがある(写真3)ので、ある程度の余裕を持たせるように十分注意する。
- ・ 園内の樹(特に、樹幹下)や巻き付けたネット内における成虫の発生を定期的に観察する。成虫をネット内で確認した場合には、速やかにハンマー等で撲殺する。ネットの外で確認した場合には、捕殺する。捕獲する際、刺激臭を放つ場合があるので、必ず手袋を着用する。



写真1 ネット内で羽化した成虫



写真2 ネット外で羽化し、交尾中の成虫



写真3 密着したネットをかみ切る成虫